

●ポスターセッション (P-水環境・湖沼-P-B01~P-B12)

本ポスター発表の12件(内1件は講演中止)は、水環境・湖沼に関するものであり、有機物や栄養塩類等の水質に関する研究が6件、植物プランクトンに関する研究が2件、水生植物による水質浄化に関する研究が3件であった。各々の研究内容は以下のとおりである。

P-B01「琵琶湖におけるTOC、COD、難分解性有機物を指標とした発生源調査について」(岡本ら)では、生活系処理水中の難分解性有機物に関する調査結果と、これらを基に試算した琵琶湖流域における生活系の有機物負荷の状況について報告された。

P-B02「八郎潟高濃度リン地下水の流向・流速及び自然湧出量」(成田ら)では、高濃度のリンが検出された観測井の流向・流速およびリンの年間湧出量について報告された。

P-B03「湖山池における底泥の粒径別栄養塩溶出特性」(島野ら)では、底泥の粒径に着目し、各粒径における栄養塩溶出実験による湖山池底泥の溶出特性について報告された。

P-B04「Influence of fulvic acids on the toxic effects of Cadmium and Zinc on *Chlorella vulgaris* due to photochemical modification」(Meegolleら)では、UV照射されたFAが浮遊藻類の生長を促進することが報告された。

P-B05「富栄養湖霞ヶ浦における溶存炭水化物の分布」(佐藤ら)では、HPLC-PAD法による霞ヶ浦における溶存炭水化物の空間分布およびその季節変動について報告された。

P-B06「霞ヶ浦における植物プランクトン群集と溶存有機物の蛍光特性の関係」(北村ら)

では、霞ヶ浦における湖水中の植物プランクトン群集と主に溶存有機物の質・量的特性の関係について報告された。

P-B07「世界湖沼および河川におけるPFOSおよびPFOA」(津田ら)では、日本を含めた世界の湖沼および河川におけるPFOSおよびPFOAの濃度調査データを既報の文献調査により集積し、琵琶湖湖水および周辺河川水の調査データとの比較が報告された。

P-B08「ITS配列を用いたかび臭物質産生*Anabaena*属の分類に関する検討」(太田ら)では、*Anabaena*属における16sRNA遺伝子と23sRNA遺伝子間のITS配列を対象とした分類の検討が報告された。

P-B10「焼成湖泥を用いた水草植栽実験～山中湖での栽培事例～」(吉澤ら)では、山中湖において湖泥の焼成基物を用いて沈水植物の植栽を行い、懸濁質のろ過効果が期待される二枚貝を飼育した結果が報告された。

P-B11「琵琶湖における水質調査および造粒GBを用いた水質浄化に関する研究」(緒方ら)では、富栄養化の原因物質であるリン酸の除去技術として結合剤を用いて造粒したアルミニウム系化合物であるギブサイトのフィールドでの実用化についての検討が報告された。

P-B12「湖沼の沈水植物再生における派生バイオマスの活用評価」(見島ら)では、主要な指定湖沼において沈水植物を再生した場合における、緑肥、堆肥、メタン発酵による液肥として水田及び畑地へ還元した際のエネルギー収支の算定について報告された。

(千葉工業大学・生命環境科学科 村上 和仁)